



(2000円)

特許願

昭和50年2月3日

特許庁長官 斎藤英雄 殿

1. 発明の名称
ホウツキ オ センタントウマ ホウホウ
包装機に於ける先端胴巻き方法

2. 発明者
シモヂアイ
住所 埼玉県与野市下落合1205
ヨシダヨシオ
氏名 吉田芳雄 (外2名)

3. 特許出願人
郵便番号 116 TEL (802) 1101
ミナミセシユ
住所 東京都荒川区南千住7-20-24
ミナミセシユセイサクショ
名称 株式会社 南千住製作所
タカラオカヒサオ
代表者 高岡久夫 (印)

4. 添付書類の目録
(1) 明細書 / 通
(2) 図面 / 通
(3) 願書副本 / 通

明細書

1. 発明の名称

包装機に於ける先端胴巻き方法

2. 特許請求の範囲

上部包装紙端出ロールの下部にラインシャフトよりクラッチ、ブレーキ、チーン等を介して一定速度で伝動される上下の胴巻きピンチロールと、前側に一方向クラッチとチーンを介してエアーシリンダ等で任意の速度で伝動される上下の供給ピンチロールを配置し、被包装体を包装紙が先端をくくる如く供給ピンチロールで送り胴巻きピンチロールに被包装体が吸込まれる時に包装紙が希望する速度をもつて巻き付くように、胴巻きピンチロールに比較して供給ピンチロールを低速側に变速可能としたことを特徴とする包装機に於ける先端胴巻き方法

3. 発明の詳細な説明

本発明は半判包装機の胴巻方法に関するもので、従来被包装体が鉄板、プラスチックプレート、ガラス等の如くコーナーがシャープエッヂ

⑯ 日本国特許庁

公開特許公報

⑯ 特開昭 51- 90687

⑯ 公開日 昭51. (1976) 8. 9

⑯ 特願昭 50- 14188

⑯ 出願日 昭50. (1975) 2. 3

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

6519 38

⑯ 日本分類

134 A311

⑯ Int. Cl.

B65B 11/08

な横端プレートの場合、包装紙をタイトに胴巻すると、後続する耳折り工程のコンベヤ搬送中又はパレタイズ時の包装体落下積載時に横端プレートのコーナーと穂線のシャープエッヂの為に包装紙が切れたり、破損したりする事があつた。その為に包装紙自体を強いものにしたり、胴巻きをゆるく巻き付けるようにするが中々一定のゆるみで胴巻する事が出来ず、包装荷姿を悪くしたり、時々破損するのが現状である。

従つて本発明の目的は先端胴巻時に包装紙を希望するゆるやかさに巻き付かせる為に胴巻ピンチロールに比較して供給ピンチロールを任意の速度で伝動して被包装体(横端プレート)の送り速度と胴巻きピンチロールの表面周速との速度差をもたせて包装紙を被包装体先端より先に引き出す効果をもたせて被包装体を吸い込まれる事により胴巻きを適當なゆるやかさで行い、被包装体の包装紙の破損を防止する方法を提供するにある。

以下実施例についてこれを詳しく説明する。

第1図及び第2図は本発明の側面図と伝動系統図であり、被包装体aは供給コンベア1を介して下供給ピンチロール2と上供給ピンチロール3にはさまれ押付圧はスプリング等により与えられている。上下供給ピンチロール2と3はチエーン16で運動され、エアシリンドラ13によりラックビニオン12と一方向クラッチ18とチエーン14を介して任意の速度で伝動される。一方向クラッチ18はラックビニオン12側より見て反時計方向にのみ伝動可能で、下供給ピンチロール2を駆動する。

一方上胴巻ピンチロール6は被包装体aの厚さTに對して適當な圧着力をもつてスプリング等で押し下げられており、下胴巻ピンチロール5はチエーン17で運動されている。この上下胴巻ピンチロール5と6はモータ22で駆動されているラインシャフト21よりクラッチ20とブレーキ19とチエーン17を介して包装サイクル毎に起動、停止がなされる。一方包装紙bは図示はしてないが、捲出機と計測装置によ

りダンサーロール10とガイドロール8、9、11を介して包装サイクル毎に被包装体に見合う速さだけ運び出され、ラインシャフト21よりクラッチ20A、ブレーキ19Aとチエーン23を介して上部包装紙捲出ロール9に巻きとられている。

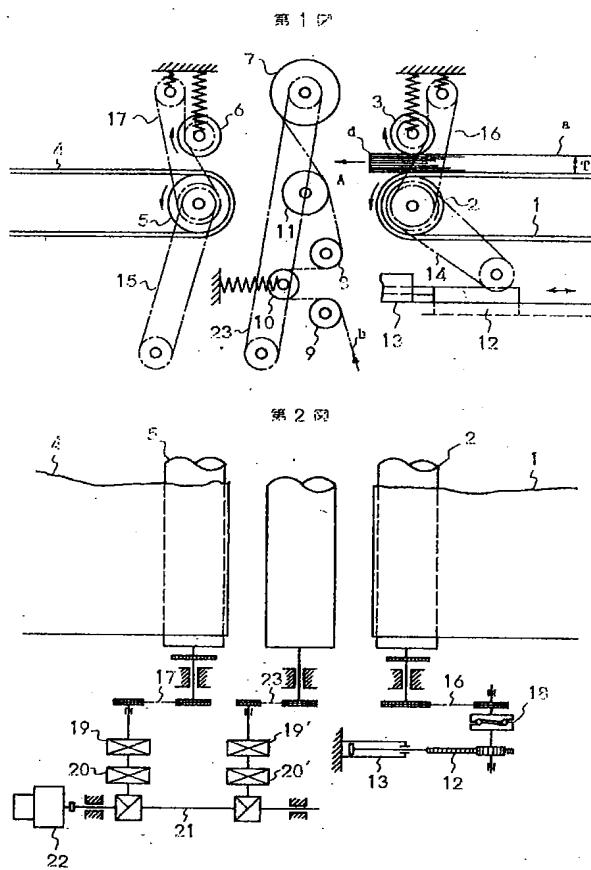
従つて連續包装作業に於て被包装体aを上下ピンチロール2と3ではさんで適當な速度で送り出すと被包装体の先端a'は包装紙bをガイドロール8側と上部包装紙捲出ロール9より同じく引き出しながら進行する。しかるに第3図に示す如く上胴巻ピンチロール6と胴巻コンベア4は被包装体の送り速度より速い高速で伝動されている為に、被包装体の先端a'が吸込む時は上下の包装紙が先に引張られて第4図の如く包装紙は被包装体の先端をくくり希望するゆるやかさで巻き付ける事が出来る。

従つて本発明の先端胴巻き方法を用いれば、包装体の包装紙の破損を防止し、且つ一定の包装荷姿を保持する効果がある。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の実施例を示すもので、第1図は側面図、第2図は伝動系統図、第3図は先端胴巻進行図、第4図は先端胴巻状態図である。
1. 供給コンベア、2. 下供給ピンチロール、3. 上供給ピンチロール、4. 胴巻コンベア、5. 下胴巻ピンチロール、6. 上胴巻ピンチロール、7. 上部包装紙捲出ロール、12. ラックビニオン、13. エアシリンドラ、14. 15. 16. 17. チエーン、18. 一方向クラッチ、19. ブレーキ、20. クラッチ、21. ラインシャフト、22. モータ、a. 被包装体(横戻ブレード)、a'. 先端、b. 包装紙、A. 换送方向、T. 厚さ。

特許出願人 株式会社 ㈲千住製作所
代表者 高岡 久夫



5. 前記以外の発明者

ヒラカタ

住所 埼玉県越谷市平方 2889~23
氏名 イチノカワ キンジ
市野川 欽司

ヒガワカイ

住所 埼玉県流山市東深井 396
氏名 ヨシヤマ セイシ
横山 康司